

平成23年度 原子力防災訓練（図上）の実施について

原子力防災体制の充実を図るため、岡山県地域防災計画（原子力災害等対策編）等に基づき、独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターにおける火災による放射性物質の漏洩事故を想定した、災害応急対策訓練を次のとおり実施する。

記

- 1 日 時 平成23年10月6日（木） 8：30～16：00
- 2 場 所 上齋原オフサイトセンター（緊急事態応急対策拠点施設）
岡山県庁（防災・危機管理センター）など
- 3 主 催 岡山県防災会議
- 4 参加機関 文部科学省、文部科学省上齋原原子力安全管理事務所、経済産業省上齋原原子力保安検査官事務所、陸上自衛隊第13特科隊、岡山県、鳥取県、鏡野町など 16機関 約80名
- 5 訓練の内容
 - (1) 事故発生通報伝達訓練
 - (2) 情報収集・参集訓練
 - (3) 危機管理チーム会議設置・運営訓練
 - (4) 図上防災訓練
 - ① 現地事故対策連絡会議設置・運営訓練
 - ② テレビ会議システムによる協議訓練
 - ③ SPEEDI予測結果の活用訓練
 - ④ プレス発表訓練

6 主な訓練スケジュール

| 上齋原オフサイトセンター | |
|--------------|---------------|
| 12:00～16:00 | 図上防災訓練 |
| 13:10～13:25 | 第1回現地事故対策連絡会議 |
| 14:30～14:40 | 第2回現地事故対策連絡会議 |
| 15:50～16:00 | 第3回現地事故対策連絡会議 |

| 県 庁（防災・危機管理センター等） | |
|-------------------|--------------|
| 11:00～12:30 | 事故発生通報伝達訓練 |
| 13:10～13:25 | 第1回危機管理チーム会議 |
| 15:50～16:00 | 第2回危機管理チーム会議 |

【 参 考 】 (独) 日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センターについて

1 主な沿革

| | |
|----------|-------------------|
| 昭和30年11月 | 人形峠でウラン鉱床露頭発見 |
| 31年 8月 | 原子燃料公社発足 |
| 32年 8月 | 〃 人形峠出張所開設 |
| 42年10月 | 動力炉・核燃料開発事業団発足 |
| 平成10年10月 | 核燃料サイクル開発機構発足 |
| 17年10月 | (独) 日本原子力研究開発機構発足 |

2 主な施設の概要

(1) ウラン濃縮原型プラント

昭和63年4月に運転を開始し、平成13年3月に濃縮ウランの役務生産運転を終了した。

現在は工程内に滞留しているウランを除去するための準備を行っている。

(2) 濃縮工学施設

昭和54年9月に運転を開始し、平成9年3月に運転試験を終了した。

現在は使われていた遠心分離器などの、環境に配慮した解体技術の開発などを行っている。

(3) 製錬転換施設

昭和57年2月に運転を開始し、平成11年7月に回収ウラン転換実用化試験を終了した。

現在は、施設・設備の解体作業を進めている。

(4) 鉱山跡措置

ウランの探鉱、採鉱、製錬の技術開発を進めてきた結果発生した捨石や鉱さいを保管しているたい積場等の安全な維持管理を行うとともに、これらの施設について立入り制限等の措置を不要とするための鉱害防止、放射線防護等の技術開発を進めている。

<センター施設配置図>

